

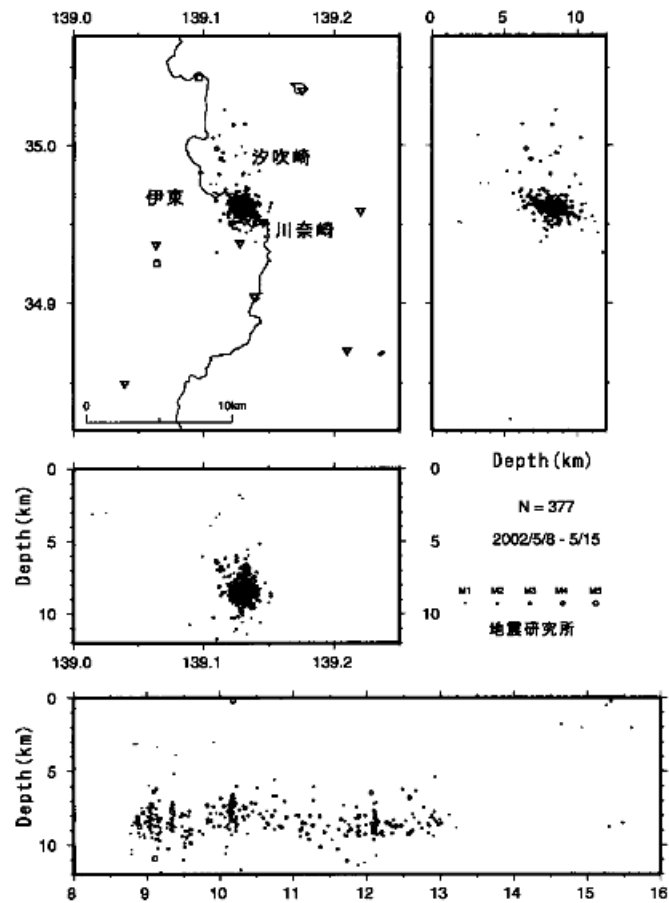
4 - 4 伊豆半島東方沖の地震活動 (2002 年 5 月)

Seismic activity off east coast the Izu Peninsula (May, 2002)

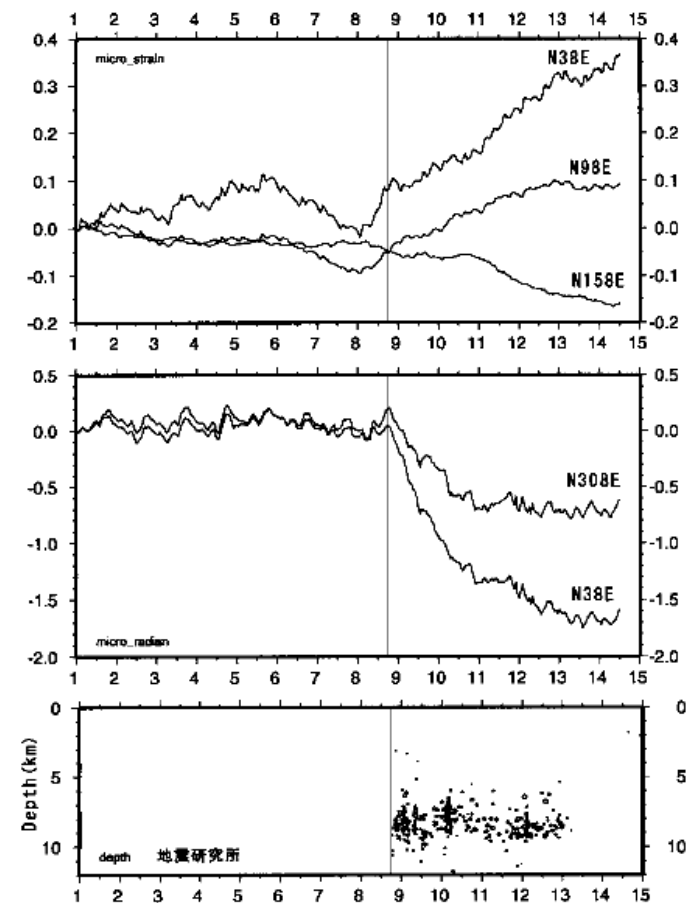
東京大学地震研究所 地震地殻変動観測センター
Earthquake Research Institute, University of Tokyo

2002 年 5 月 8 日 18 時過ぎから伊東市汐吹崎の直下で地震活動が始まった (第 1 図)。震源の深さは 8~10km で、最大の地震は M2.0 であった。伊東市新井に設置されたボアホール型ひずみ計・傾斜計と今回の地震活動とを比べると、地震が始まった 8 日 18 時頃から傾斜計が 2 成分共に変化し始めている (第 2 図)。ひずみ計も同時刻から変化しているが、その前の 8 日未明から変化が始まっているようにも見える。過去 5 回の群発地震活動開始の 1 週間を見ると、どの群発地震活動も約 10km の深さから始まって半日~1 日で上昇し、5km 前後の深さで活発な地震活動になっている (第 3 図)。それに対し、1995 年 9 月の地震活動では、9 月 11 日~14 日と 18 日~19 日に小規模な群発地震が発生し (最大で M2.6)、その後 9 月 28 日からの大規模な活動に至っている。1996 年 7 月には、汐吹崎で小規模な群発地震が約 3 週間続き (最大で M2.3)、その後、有感地震を含む群発活動が 10 月 15 日から始まった。これらの本格的な群発地震に先行する小規模な活動は、深さは 8~10km で上昇せず、M2 級の地震しか発生しないことが共通点である。今回の活動も同様に、上昇せず、小規模な地震のまま、約 4 日間の活動で終わっている。

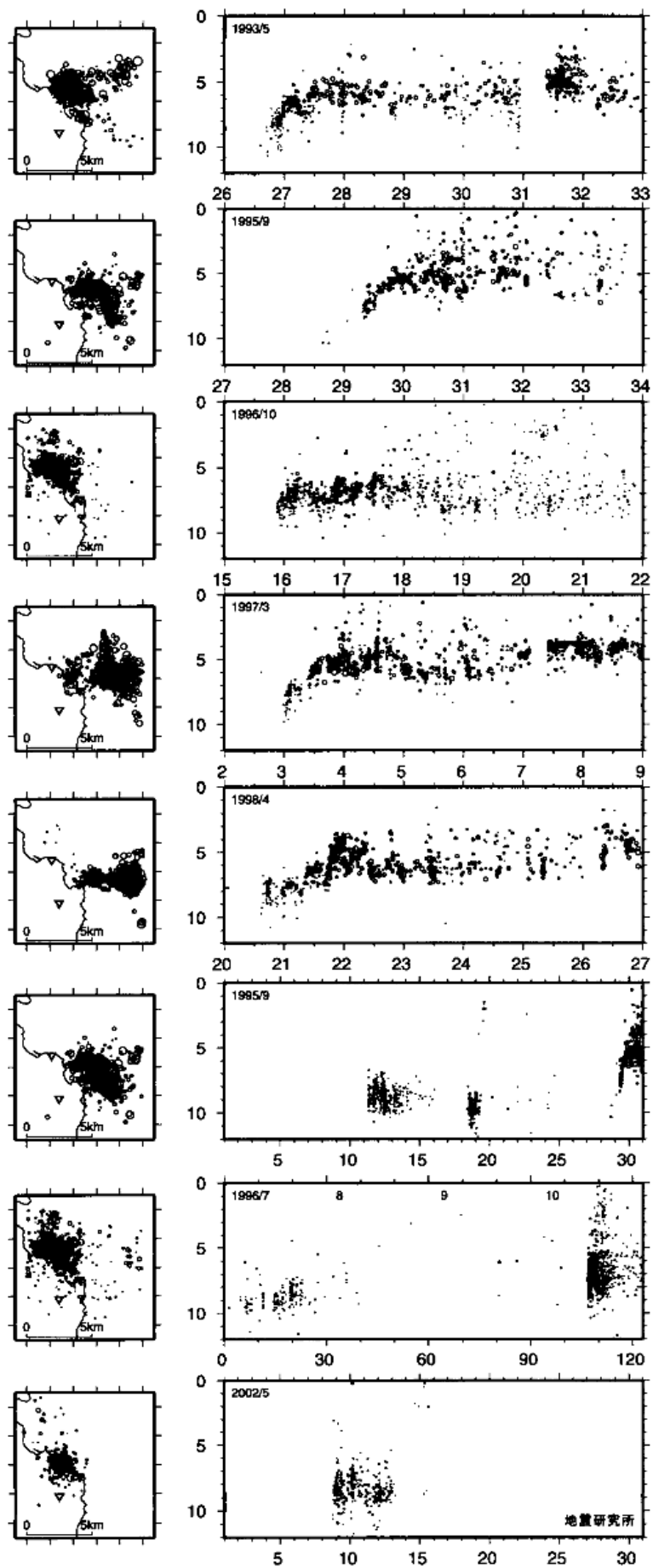
(酒井慎一)



第1図 伊豆半島東方沖の地震活動(2002年5月8日~15日)。
Fig.1 Seismic activity east off the Izu Peninsula (2002/5/8-15).

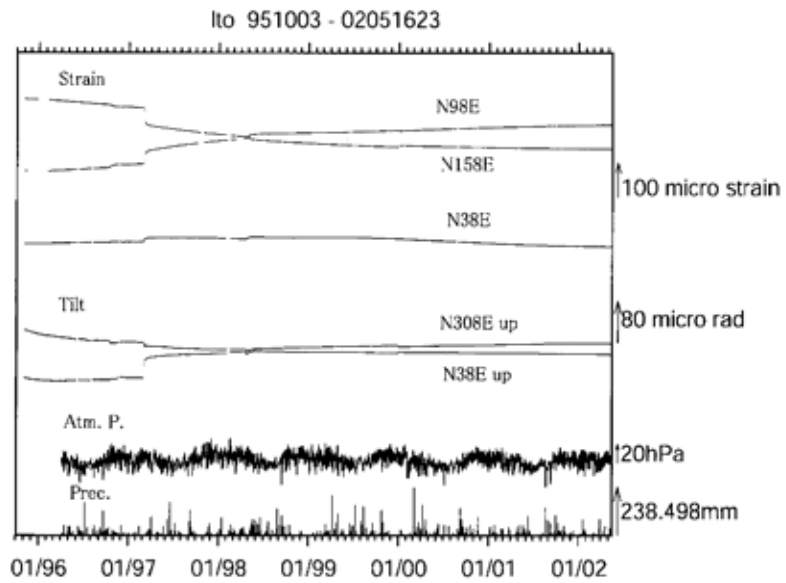


第2図 伊東観測点のボアホール型ひずみ計・傾斜計と群発地震。
Fig.2 Tilt and strain in the Ito deep borehole with the seismicity.

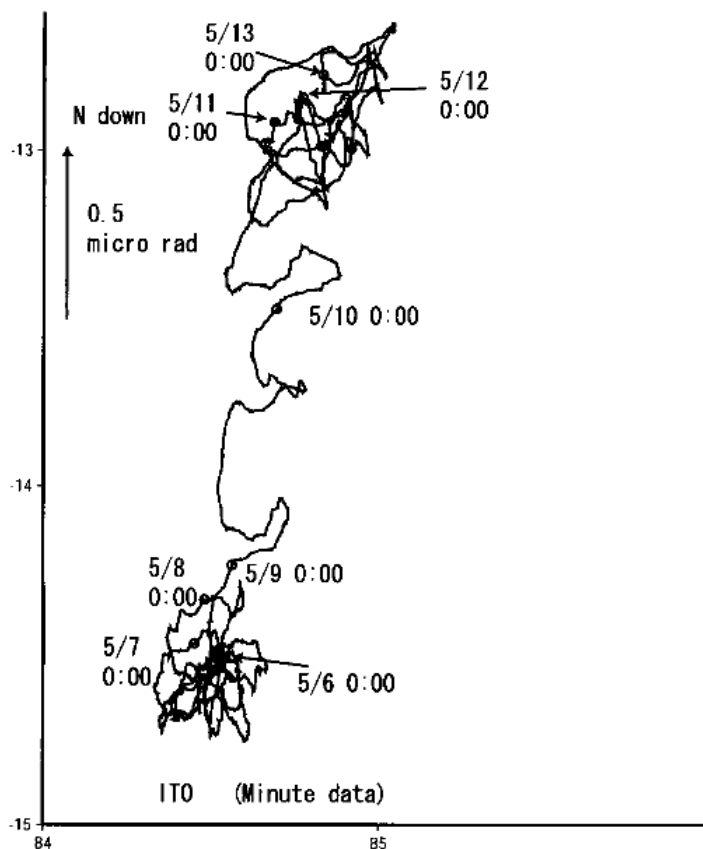


第3図 過去の群発活動の時系列。

Fig.3 Time-space distribution of the start one week.



第4図 伊東観測点において観測されたひずみ・傾斜変化の日平均値。
 Fig.4 Daily average of tilt and strain in the Ito deep borehole.



第5図 傾斜傾動ベクトル。
 Fig.5 Tilting vector.